

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

いずれにしても、日本人の「働きすぎ」という問題は、根が深い。「勤勉」というのは、美德だが、「働きすぎ」といふのは、美德であるはずがない。私たち日本人は、大正時代から今日まで、そのことについて「真剣に反省した」ことは、一度もない。それにしても、なぜ日本人は、働きすぎてしまうのか。本章までの考察を踏まえただけでも、何とか、その理由は説明できそうである。以下、「中間まとめ」を兼ねて、いくつか、その理由を挙げてみよう。

明治の近代化以降、「勤勉」ということが、あまりに強調されてきたことである。江戸時代の農民が、必ずしも勤勉とは言えなかつたことは、すでに確認した通りである。また、明治期に入つたのちも、多くの農民が「勤勉化」するのには、明治三〇年代に入つてからのことであった。しかし、その一方で、江戸時代には、武士階級に属する人々などの間に、勤勉を尊ぶような規範意識が保持されてきた。また、江戸中期以降、真宗門徒の間に、「勤勉のエートス」が生まれ、これは明治以降も引き継がれた。さらに、明治の開国と同時に、福沢諭吉らの啓蒙思想家が、歐米的な勤勉イデオロギーを広めた。明治政府もまた、明治中期以降、二宮尊徳という思想家を復活させるなどして、国民の間に、「修身」的な勤勉イデオロギーを浸透させていった。このように「勤勉」が強調された結果、「勤勉」と「働きすぎ」が混同され、「働きすぎ」を、「勤勉」の一態様として、肯定的に捉えるような状況が生じたことである。このことに関するでは、二宮尊徳「時間睡眠」神話の影響力も、否定できない。厳しい生存競争に直面している農民や、厳しい労務管理の下にある労働者が、やむなく「働きすぎ」に陥る状況に対し、歯止めになるような方策が存在しなかつた。あつたとして、十分に機能しないなかつたことである。

※作問の都合上、改編・省略した箇所があります。（磯川全次『日本人はいつから働きすぎになつたのか』より）

設問

問一 この文章は、「第七章 なぜ日本人は働きすぎるのか」の一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える「日本人が働きすぎる理由」を、筆者が考える理由の数を明らかにして八〇字程度で述べなさい。

・肯定的 ・厳しい ・勤勉 ・方策 ・強調 ・美德 ・歯止め ・混同 ・イデオロギー

- エリトス：道徳的な慣習・雰囲気。
福沢諭吉：明治時代の思想家。著書に「学問のすゝめ」などがある。
啓蒙思想家：一般大衆に教育を施すことで、貧困や無知から脱却できると考へる思想家のこと。
二宮尊徳・二時間睡眠神話：幼名は、金次郎。江戸時代後期の日本を代表する「勤勉家」・睡眠時間を二時間しか取らずに働いていたという伝説。

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

【ここまでのお話】エルフは、若くて、強くて、すばらしく大きなオスのだ
ちようです。草原でだちようの仲間たちや、他の動物た
ちと楽しく暮らしています。そんなある日、エルフたち
危険が迫ります。ライオンがやつてきたのです……

(おのきかく『かたあしたぢようのエルフ』より)
※作問の都合上、省略・改編した箇所があります。

※ ての間の備附に、数には合計点、符号を含むものとする。

二四

問二 線部①「ぼくらのエルフ」とありますが、子どもたちはエルフに対して、どのような気持ちを抱いていると考えられますか。三十字以内で簡潔に説明しなさい。

問三 線部②「エルフにとつてはくるしみの日がはじまつた」とありますが、なぜですか。その理由を「かたあしでは」に続くように、三十字以内で簡潔に説明しなさい。

四

問五 線部④「みんなのこえがゆめのなかできこえたようなきがしました。そして、だんだんきがとおくなつて、みなにもわからなくなつてしまいまして」とあります。このとき、エルフにどのようないきがとおくなつていたか。三十字以内で簡潔に説明しなさい。

問六
——線部⑤——
「木になつたエルフ」とあります。この部分について、つぎのア・イの各間に答えなさい。
ア 「木になつたエルフ」は、どのような気持ちでいると考えられますか。三十字以内で簡潔に説明しなさい。
イ 「木になる」ことを予感させる表現を文中からさがし、一文で書き抜いて答えなさい。